

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー
2024年度事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2024年度の事業計画を次の通り定める。

I 事業計画基本方針

本法人の使命を果たすために、2024年度において以下の基本方針を掲げ、新たな活動や事業方策を検討し安定した財団運営を推進する。

1. 財団事業の展開

- 1) 定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話（はなしあい）を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。
- 2) ① 関西セミナーハウスの事業は、コロナ禍後の社会状況を踏まえつつ、事業展開の可能性を模索し、新たな運営形態に取り組む。
② アカデミー運動における事業活動は、研修・セミナーは積極的に集合形式を計画するとともに、リモート形式についても運営方法の充実をはかる。
- 3) 東・西施設の適切な運営管理を行い、法人運営の健全化を進める。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

- ① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 各活動センターのプログラムは、それぞれにおける収支バランスをとることを原則とし、且つ事業費、寄付金収入も含め、各活動センター全体としても収支バランスの取れた運営を目指す。
- ③ 講師ならびに参加者同士の対話を中心に進めつつ、オンライン会議においてもより充実した運営方法に取り組む。
- ④ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発と効果的な広報に取り組む。
- ⑤ 得られた成果については機関紙ならびにデジタルツールなどによって広く社会に発信し、啓発活動を活発化する。

(2) 関西セミナーハウス

アカデミー活動の安定的継続を支援するため、宿泊施設・会場を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する方策を検討し実施する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

- ① 新体制を構築し、安定した運営に取り組む。
- ② 一般利用者、企業等に対して団体客を中心とした施設の利用を促進し、その収益の一部を公益活動に資する方策を組み込む。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を当該施設の補修、維持、向上等及び公益活動への貢献に資する。

なお、借主及び管理組合との交渉に関しては、財団本部が責任をもって行う。

3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告するとともに、より効果的な広報を検討し取り組む。

具体的には広報先やツールなどについて、効果的に且つ効率的に行う方策を検討し実施する。このことによって本法人の使命や活動をより広く知らせ、理解者、賛同者ならびに事業や活動の参加者、利用者の増加につなげる。

東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページやSNS等によって積極的な情報発信を継続する。

3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の仕組みや広報について見直し、拡充に取り組む。

5. 本法人が使命に基づき健全に運営を継続するために、各事業を推進する人財を育成・確保する。

また、役員・委員の人財の確保と各事務局機能強化と連携に取り組む。

II 関東活動センター2024年度事業計画

2024年度の関東活動センターは、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画している。

1. 関東活動センターの事務局態勢が新しく変えることに伴い、浦上充運営委員長、古賀博所長代行のもとに、徐々に新機軸を打ち出していくこととしたい。
2. Covid-19の感染がなお続く中で、注意しながらも対面式の講座やプログラムを少しずつ増やしていきたい。
3. 「今日的課題」Ⅰとして、「LGBTQと教会」というテーマで、中村吉基講師の連続講座を実施する。このプログラムは、対面式で実施される。興味本位、あるいは無責任な参加を制限するためである。
4. 「宗教対話」Ⅰとして、この間継続して聖書講座を担当していただいた山口里子さんを講師として、『いのちの糧の分かち合い』（新教出版社）を共に読み、話し合うプログラムを実施する。このプログラムは、海外、及び全国各地からの多様な参加者に呼びかけるために、全面リモートで行なう。
5. 「宗教対話」Ⅱとして、小海基講師による「共に讃美歌を歌おう」を実施する。このプログラムはコロナ感染症の拡大前に計画していたが、発声を伴うプログラムであるために、この間実施を見合わせていた。満を持してのスタートである。
6. 「宗教対話」Ⅲとして、昨年度に引き続き、少人数の読書会「キリスト教と文学」（講師・柴崎聰）を実施する。このプログラムは対面式で行なう。
7. 「宗教対話」Ⅳは、これまでに引き続き柏木義円研究会との共催で、柏木義円の現代的意義を問う公開講演会を実施する。
8. 体験プログラムとして、コロナ以前に引き続き「礼拝の言葉を豊かに」というテーマで、話し方ワークショップを月に一度のペースで開催する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語の訓練を行う。
9. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2024年度も各神学校の賛助を得て、第14回プログラムを実施する。リモートでの開催か、対面での開催かについては現在検討中。

フォーラム事業			
関東フォーラム今 日の課題Ⅰ	6回	連続講座「LGBTQと教会」 講師・中村吉基、対面式 会 場・NCA 事務所	日程未定
関東フォーラム宗 教対話Ⅰ（早稲田奉 仕園と共催）	10回	『虹は私たちの間に』を読見 放し合う 講師・山口里子 全面リモートで実施	第1回4月9日（火） 第2回5月14日 第3回6月11日 第4回7月16日 第5回9月10日 第6回10月8日 第7回11月12日 第8回12月10日 第9回1月14日 第10回2月11日
関東フォーラム宗 教対話Ⅱ	6回	「共に讃美歌を歌おう」 講師・小海基 会場・東中野 教会 対面式	日程は未定
関東フォーラム 宗教対話Ⅲ	10回	読書会「キリスト教と文学」 講師・柴崎聰（文芸評論家） ミヒヤエル・エンデ『モモ』 倉田百三『出家とその弟子』 ドストエフスキー『罪と罰』 ドストエフスキー『罪と罰』 有島武郎『カインの末裔』 ラーゲル・レーブ『キリスト 伝説集』 O・ヘンリー『最後の一葉』 太宰治『トカトン』 カズオイシグロ『日の残り』 原田マハ『奇跡の人』	第1回4月16日（火） 第2回5月21日（火） 第3回6月18日（火） 第4回7月16日（火） 第5回9月17日（火） 第6回10月15日（火） 第7回11月19日（火） 第8回1月21日（火） 第9回2月18日（火） 第10回3月18日（火）

関東フォーラム（柏木義円研究会と共催）	1回	柏木義円公開講演会 講師未定（全面リモートで実施）	11月16日（土）
話し方ワークショップ	10回	「礼拝の言葉を豊かに」話し方ワークショップ（ステップ・アップ講座、初心者も可）講師・友野富美子 会場は東中野教会 対面プログラム	
神学生交流プログラム		第14回神学生交流プログラム 校長 神田健次（関西学院大学名誉教授）、講師 未定 開催場所は未定	2025年3月に2泊3日で開催予定

Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター2024年度事業計画

平和、正義、いのちが侵害されている社会の現状を克服し、いのちの輝きを共有する世界の実現を目指す、はなしあい活動を展開する。

問題の本質を見抜き、根源的問題提起をできる発題者を立て、対論を深め、混迷における光を探索する。

戦争を克服し、平和な世界を実現する道を様々な角度から探り、その成果を出版して、市民と共有する。

原子力発電、再生可能エネルギー、環境汚染、貧困、差別などの問題と向き合い、克服する道を探る。

これらの対話集会は、関西セミナーハウスで、講師と参加者が直接出会い、時間をかけて語り合い、考えを深め合うと共に、オンラインにより遠隔の人も対話に参加できるようにする。

対話集会の発題講演は録画し、YouTube ライブラリーに収め、後日ホームページ上で申し込むことにより、その内容を共有することが出来るようにする。それにより、当活動センターの集会が、広く、教会員、市民の間で共有され、やがてその中から、活動センターでの集会に直接参加する人が出てくることを期待する。

そのためにホームページ上で、これらの集会に繋がりやすい仕掛けを工夫する。

これらのプログラムを財政的に支援するため、いつでも容易に寄付できる方法をホームページ上に設け、年間を通し、これらの企画が赤字を生まないように工夫する。

これら集会の成果は、適宜機関紙「はなしあい」誌上で報告し、支持者を広げるよう努める。

フォーラム事業			
修学院フォーラム 社会	第1回 シリーズ 「戦争と平和」	預言書に学ぶ非戦のこころ—第2イザヤを中心に 講師 石川 立 (同志社大学名誉教授)	4月13日 (土)
	第2回 シリーズ 「戦争と平和」	「戦争の時代」にしないために—沖縄対話プロジェクトの経験から 講師 岡本厚 (前岩波書店社長・元雑誌「世界」編集長)	5月25日 (土)
	第3回 シリーズ 「戦争と平和」	中東の平和を考える アメリカはなぜイランと対立するのか 講師 中西久枝 (同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授)	6月1日 (土)
	第4回 シリーズ 「戦争と平和」	武器なき世界の実現を一報復でなく、いのちの連鎖へ (仮) 講師 松浦悟郎 (カトリック名古屋教区司教)	7月27日 (土)
	第5回	エネルギーを考える 避けられない地震と津波：原子力災害を避けるために (仮) 講師 交渉中 安全でいつでもどこでも利用できる太陽の光と風の力 (仮) 講師 交渉中	2025年3月→調整中
	第6回	ケイト・ラワースが提唱している「ドーナツ経済学が世界を救う」が、日本でどのように実践されているのか (仮) 講師 広井良典 (京都大学 人と社会の	2025年2月15日 (土)

		未来研究院教授)	
修学院フォーラム 福祉	第1回	夜回りの活動を通して見えてくるもの (仮) 講師 桜井 希(同志社中学・高等学校)	10月12日(土)
	第2回	子ども・女性・若者の「貧困」(仮) 講師 交渉中 京都 YWCA と共催	12月または2025年 3月予定
修学院フォーラム いのち	第1回 シリーズ 「戦争と平和」	咸錫憲(ハム・ソクホン)のシアル(民衆)思想—「韓国のガンジー」が問いかける非暴力主義 講師 朴賢淑(パク・ヒョンス)(大阪女学院大学・短期大学准教授)	8月31日(土)
	第2回	旧約聖書が現代に語りかけるもの(仮) 講師 月本昭男(古代オリエント博物館館長)	9月15日(日)～16日(月)
	第3回	聖書をエコロジーの視点で読む フォローアップ(仮) 講師 大澤香(神戸女学院大学文学部総合文化学科准教授)	2025年1月11日(土)
	第4回 シリーズ 「戦争と平和」	歴史を変えた非暴力主義: 再洗礼派からキング牧師まで 講師 踊共二(武蔵大学リベラルアーツアンドサイエンス教育センター教授)	2025年1月25日(土)
	第5回	スピリチュアルケアを考える(仮) 講師 藤井理恵(元淀川キリスト教病院チャプレン)	2025年2月22日(土)
研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー 「パレスチナ」 「となりのムスリム・ムスリマ」(仮) 講師 開発教育研究会	6月23日(日)

		共催 (公財) 京都市国際交流協会	
	第2回	パレスチナ問題 (仮) 講師 岡真理 (早稲田大学文学学術院 文化構想学部教授)	7月6日 (土) ~7 日 (日)
	第3回	市民によるアドボカシー (仮) 講師 加藤良太 (環境市民)	9月7日 (土) 8日 (日)
	第4回	難民支援 (仮) 講師 田中恵子 (NPO 法人 RAFIQ (難 民と共生のネットワーク))	10月5日 (土) ~6 日 (日)
	第5回	食と農、コモン (仮) 講師 平賀緑 (京都橘大学経済学部准 教授)	11月30日 (土) ~ 12月1日 (日)
	第6回	朝鮮近現代史 (仮) 講師 板垣 竜太 (同志社大学社会学 部教授)	12月21日 (土) ~ 22日 (日)

IV 関西セミナーハウス2024年度事業計画

2024年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りとする。

1. 運営方針

- 1) コロナによる臨時休館解除3年目となる本年度は従来の運営方法にとらわれず、利用者の利便性を高め、施設の魅力を再発信するなど今後の社会変化に対応した事業展開を行う。
- 2) 宿泊者および会議室利用の増加を図ることにより、収益事業として財団経営の安定化につなげる。
- 3) 関西セミナーハウス施設維持管理を目的とした寄附金の募集を継続する。
- 4) 関西セミナーハウスの運営に関する諸課題については経営委員会で検討し、運営する。

2. 予算編成上の留意点

- 1) 会計単位別の収支予算書に加え、関西セミナーハウスについては損益計算書を作成する。
- 2) 職員の人件費について、本部と関西セミナーハウスの従事割合により配分する。
従事割合は本部事務局で検討する。

V 本部2024年度事業計画

1. 安定した本部事務局運営に取り組む

- ① 東・西活動センターの事務局運営支援
- ② 運営委員会委員の合同での協議と懇談の会の実施

2. ミッションの確認と拡充

- ① 諸外国におけるアカデミー運動を学び日本のアカデミー運動を確認する。
- ② 賛同者・関連団体との連携の可能性を模索し、発信力の強化とアカデミー認知度や理解者の拡充に努める

3. 広報活動

機関紙「はなしあい」の新たな形態による発刊、デジタル化と財団の一体的広報について検討する。

4. 日本キリスト教会館の管理

オーナー会と協力し会館の維持管理に努め、テナント利用団体の施設利用に協力する。

5. 新たな法人運営並びに委員会運営を検討し、2025年度役員改選ならびに各委員会、事務局体制に繋げる

(以上)